

美濃焼文化継承誓う

東濃信金
保存事業 30周年祝い式典

東濃信用金庫が実施している「美濃陶芸作品永年保存事業」の30周年記念式典が24日、多治見市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで開かれた。

同事業は、美濃陶芸の発展と作品の後世への伝承を目的に1986年度にスタート。毎年度、優秀作品数点を選定し、買い上げるほか、人間国宝だった荒川豊蔵らの作品を特別永年保存作品として購入。これまで年

度選定66点、特別永年保存23点の計89点が保
式典には作品選定さ
れた陶芸家ら約80人が

存作品となり、同エール内の陶芸美術館で、入れ替えて展示されている。
出席。同金庫の市原好二理事長が「美濃焼は伝統から現代陶芸まで多様性があり、これだけの陶芸作品が生まれるのは全国でここだけ。美濃焼文化があることは財産、個性。産業あつての陶芸で、この地域が元気になるよう手を携え、事業を継続させていきたい」とあいさつ。



市原好二理事長から功績者の感謝状を受ける加藤孝造さん(左から2人目)、安藤光一さん(同3人目)、佐藤円三さん(右端)＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

人間国宝の加藤孝造さんらが発足当時の経緯を話し、市原理事長から、加藤さん、安藤光一さん、佐藤円三さんの3人に功績者の感謝状が手渡された。

(高木俊徳)